

<問い合わせ状況 2022年4月>



● 院外処方せんに関連する問い合わせ

当院は院外処方せんを発行しています。処方内容などに疑義が生じた場合の窓口は薬剤師となっており、月に5~10件程度の問い合わせに対応しています。4月の疑義照会は7件で、内容は以下の通りでした。



- 用法用量確認 (3件)
- 1包化希望 (1件)
- その他 (3件)
 - ・1包化指示あるが、薬剤1種でありPTP希望
 - ・在宅で服薬管理を行いたい

など



● 薬に関する問い合わせ(患者・家族・施設より)

患者さんやご家族、施設の方からの質問にも対応しています。

4月は1件質問がありました。

- 退院後 施設より：入院中、薬は粉碎していたのか？ → 簡易懸濁法にて投与していた旨を伝える

● 薬に関する問い合わせ(院内より)

他部署スタッフからの質問にもお答えしています。4月は記録したもので11件でした(病棟で直接質問されたことは未記載の可能性あります)。

◎がついたものについては回答をDI ニュース No. 446 に記載しています。

- ◎ドブトレックス[®]注の投与部位に血管が赤く浮き出ている。何故か？
- イソジン[®]が使用不可の場合に使える消毒剤は？
- 抗菌薬の投与間隔について
- ◎ヘパリンナトリウム 5,000 単位をヘパリンカルシウム 5,000 単位に変更可能か？
- ◎尿中に薬剤結晶が検出された。原因薬は何が考えられるか？
- テリボン[®]からボノテオ[®]へ切り替える際のタイミングは？
- ◎インスリンキット製剤を、キャップをせずに置いておくことはできないか？
- ◎プラミペキソールを速放錠から徐放錠へ切り替えるにはどうすれば良いか？
- ◎ダルベポエチン製剤の投与日が予定よりずれても大丈夫か？
- ◎ブリディオオン[®]は遮光保存か？
- セファゾリンの溶解後の安定性は？

